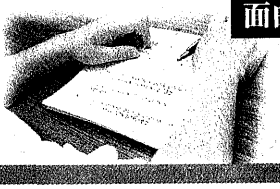
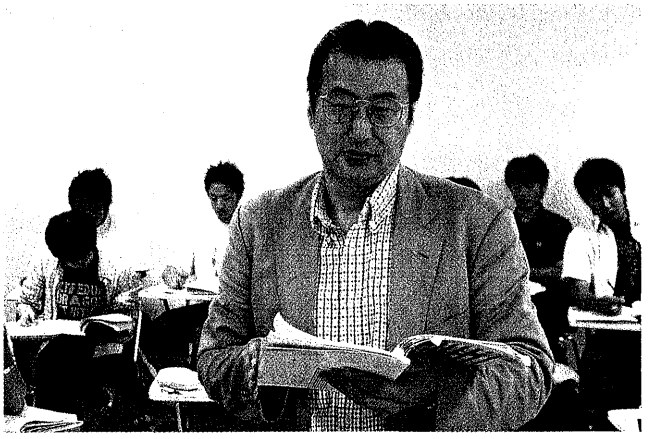


授業が面白い 特別編

先生の熱い心に迫る一問一答！



【言語センター】ドイツ語 I-3, I-4

●単位数／2　●教官／大塚　譲 教授

学生が参加してみて心から良かったと思える授業に

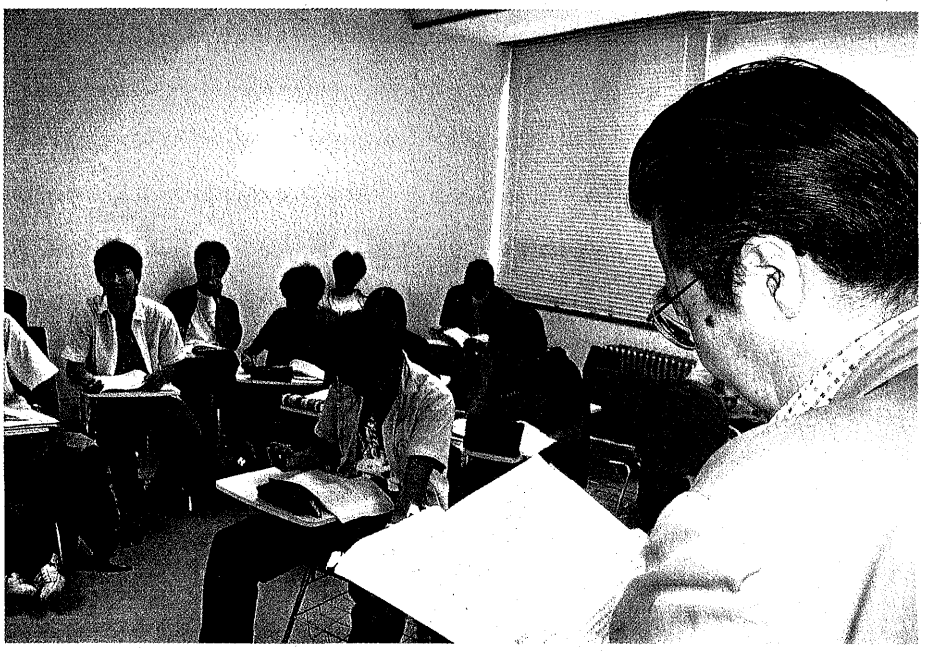
＜Q１＞この授業の特徴をお聞かせください

■高い目標にふさわしい堅固な土台作りを

どのような目標を目指して学ぶのか。これが外国語を学ぶ場合の最重要テーマです。本学では各言語に豊富な関連科目が用意されていますので，どの言語の場合でもかなり高度の目標を目指すことができます。これが我が小樽商科大学の外国語教育の一大特徴です。ドイツ語の授業も，外国語科目の一つとして，このようなシステムの中で行われていることに変わりはありません。

本学はかつて「北の外国語学校」との異名を取りましたが，この伝統は今日ますます強化されており，それは特に，多様な提供言語，全世界に広がる協定大学，活発な交換留学において顕著です。提供言語数は，創立時(明治43年／1910年)すでに６言語を数えましたが，それが現在では７言語（英語，ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，スペイン語，朝鮮語）に増えています。またこれら提供７言語の全ての使用地域に合計17の協定大学を擁しており，どの言語を学んでいようと，３・４年生で１年間の交換留学をするのもさして困難ではありません。しかし実はこれはなかなか凄いことです。全学生の約10％が常時留学し，各自の専門分野の学習を通して言語能力を磨くことができるというこのシステムこそ，本学の誇るべき一大特徴と言っても過言ではありません。各言語Ⅰ・Ⅱ（必修）と各言語の関連諸科目（選択）を学習した後，語学ゼミナールにおいて交換留学の準備と帰国後の仕上げをすれば，どの言語についても上級の実用能力の獲得は十分可能です。今後ますます多くの学生諸君がこの素晴らしいチャンスを活用し，使える語学能力の習得を目指してほしいと願っています。ドイツ語教育もこの願いの強さにおいて，他の言語に引けを取らないつもりです。

ドイツ語Ⅰはこうした高度の目標を目指す学習の土台を成します。土台がしっかりしていなければ，その上に高い建物を建てることはできません。具体的にはドイツ語の基本文法と基礎的な４技能の総合力の習得を図り，併せて本格的なコミュニケーション能力の土台作りを行います。このため単に言語構造の理論的理解に留まらず，ペア練習・グループ練習等の五感を駆使した練習方法により，語学能力がより深く定着することを目指します。こうした意味でドイツ語Ⅰの課題は実に多く，ドイツ語Ⅱでの一大飛躍のための＜辛抱＞の時期であると言えるかもしれません。しかし苦あれば楽ありで，着々とドイツ語学習を積み重ねて行けば，最後にはドイツ語圏の協定校（バイロイト大学・ウィーン経済大学・ベルリン経済大学）での交換留学が待っています。もちろんこれらの大学は本学の全専門分野をカバーしていますので，学生諸君は何を専攻していようとこの中の気に入った大学で交換留学をすることができるのです。このようにしてドイツ語を本格的に



習得すれば，環境先進国でありEUの政治経済の中核であるドイツ（およびオーストリアとスイス）の理解を通して現代ヨーロッパの動向を視野に収め，またそれらの地域の人々と自ら意思疎通を図ることも十分射程に入ってくるでしょう。

＜Q２＞先生が普段授業で心掛けている点についてお聞かせください

■学生と個人的親近感，信頼感を形成することが大切

授業の流れそのものは，他のドイツ語Ⅰのクラスや他の初習言語のⅠのクラスとそんなに変わらないでしょう。小さなシチュエーションの学習を積み重ねる形で，段階を踏んで文法項目を学び・４技能を鍛え・社会文化的背景を学んで行くのです。文法項目については言語規則の理論的理解とドリル練習によりその定着を図っています。ドイツ語Ⅰではこなすべき課題が多くコミュニケーション練習に多くの時間を割けませんが，ドイツ語Ⅱの方でその分を取り戻したいと思っています。

私の学生諸君に対する思いはただひとつ —— これは担当科目を越えて同じであると思いますが ——，長時間掛けて通学する学生諸君にも，やはり来て良かった，参加して良かったと思える授業にしたいと願っています。

それからまた学生諸君の名前と顔をできるだけ早目に完全に覚えるようにしています。それは，特に外国語科目の場合，コミュニケーション練習が不可欠ですし，また学習上の個人的サポートの必要性からも，学生と個人的親近感，信頼感を形成することがとても大切だからです。しかし「自己紹介写真カード」を使えば学生の名前を覚えるのはそれほど困難なことではありません。それに学生の名前と顔を覚えると授業に行くのも楽しくなります。

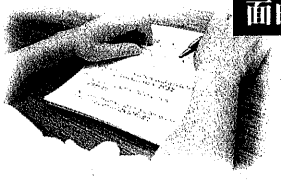
またメーリングリストを作り，学生諸君と細やかな連絡を取り合えるようにしています。これによって欠席者への必要な連絡や全員への緊急連絡にも便利である上，授業から足が遠のき始めた人とも簡単にコンタクトが取れます。学生諸君にもその重要性がよく分かっているとみえて，アドレスが変わるとすぐに知らせて来ます。

それから休講・遅刻・早退は学生の受講する権利への侵害であるから基本的にしません。後日補講することは時間割の関係で事実上ほぼ不可能であり，失われた時間は永遠に取り戻せないからです。特に学生諸君が遠路はるばるやって来ていきなり休講を知らされる事態だけは避けたいと思っています。

＜Q３＞学生の反応はいかがですか？

■学生には大いに満足しています

これらのクラスでは85～90％の学生が文字通り皆勤です。こちらが用意したメニューは着実にこなすし，宿題もきちんと提出します。試験の平均点もかなり良い。少し心配な学生もいますが，基本的に私は学生に対してほとんど全く文句はありません。大いに満足していると言ってもよいでしょう。むしろこちらからお願いしておきたいのは，時間数とクラスサイズの面で少し苦労を掛けていますが，今のうちに辛抱してがっちり基礎を固めておけば，やがてすばらしいドイツ語Ⅱの学習世界が広がることを期待していてほしい，ということです。



下川　慶史

経済学科１年
（滝川高等学校出身）

大塚先生は学生達を下の名前で呼び，肩ひじの張らない授業です。

世界史のなかで特にドイツとオーストリアの歴史が好きです。ドイツ語を学ぶことで，その知識をもっと深めることができたらいいと思います。発音もアルファベットの読み方も英語とは全く違うので，最初は戸惑いました。教科書の例文を読む，会話練習，文法の練習問題，単語のテストなど，全てが新しいことばかりでしたが，段々慣れてきて，今はとても楽しくなりました。

大塚先生は学生達のことを下の名前で呼ぶなど，肩ひじの張らない授業の雰囲気のなかで学ぶことができ，とても親近感を覚えます。いつか絶対ドイツに旅行したいです。そのためにも，ドイツ語を一生懸命勉強したい。これからもたくさん教えてください。

＜Ｑ４＞この授業を受けたＯＢのその後など，過去のユニークなエピソードがあれば教えてください

■難関のドイツの大学入学ドイツ語能力試験に２年連続の合格者

２年生・３年生・４年生と継続的にドイツ語を学んでいる者に，色々な学習チャンスを紹介しサポートしています。まず検定試験について。日本の独検については１年生後期には独検の４級，２年生後期には３級，留学から帰国した者には２級ないしは１級の受験を薦めています。しかしもっと本格的に学習している者に対しては，本学でも受験できるオーストリア・ドイツ語検定の受検を薦めています。これは技能別に行われる上質の検定試験で，国際的にも認知されています。２年生後期には基礎級，３年生の留学前の学生には標準級，留学から帰国した学生には中級（これは大学入学資格認定にも使われる），卒業前には上級（ビジネスドイツ語）の受験をそれぞれ薦めています。今年度初めて卒業前の学生が上級（ビジネスドイツ語）にぎりぎりながら合格したのはうれしい限りです。

またバイロイト大学へ交換留学した者の中に，留学の総決算として帰国前に難関であるドイツの大学入学ドイツ語能力試験（DSH）に受験する者が出てきました。そして2001年度と2002年度に連続合格を果たしたことは正に快挙と言ってよいでしょう。1名はすでにバイロイト大学の正規の学生として学んでおり，もう1名も後に続く見込みです。

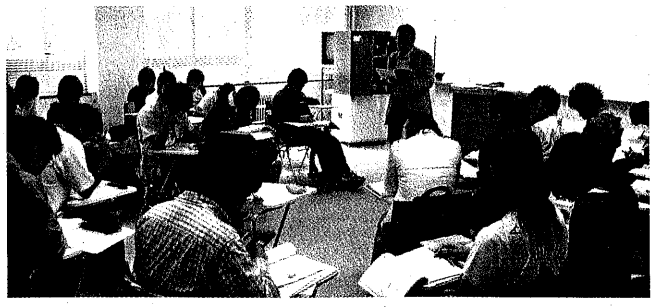
次にコンテストについて。ドイツ語に本格的に取り組み始めた２年生に，札幌姉妹都市協会主催の「ドイツ語暗唱大会」への参加を勧め練習プログラムを作成・指導しています。97年以来毎年数名の学生が遊び感覚で参加し，幸い常に上位入賞を果たしています。過去の成績は優勝２回，２位入賞２回，３位入賞２回です。また2000年以降，交換留学帰国者が東京で行われる全国スピーチコンテスト（日独協会主催，朝日新聞，ドイツ大使館等後援）に参加しています。幸いこちらも毎年２名の者が一次審査をパスして本選に進み（2002年度のみ１名），2001年度には２位入賞を果たしました。

学生諸君には，こうした先輩たちを見習って高い目標を持って勉強してほしいと願っています。

＜Ｑ５＞　学生に向けてのメッセージ

■無駄な授業は１回もない。とにかく出席を

Ｑ１，Ｑ３で触れたように，様々な制約もあり，ドイツ語Ⅰではしっかりした土台作りを主としコミュニケーション練習を従とせざるを得ないことを理解してほしいと思います。しかし１年間辛抱してドリル中心にがっちり言葉のルールを身に付ければ，ドイツ語Ⅱでは，語彙を増やしルールを駆使しながら言葉の運用の世界に入ってゆくことを期待していてほしい。ゆっくりとながらも自力でテキストを理解したり産出したりする作業が始まるのです。

ともかく毎回出席してほしい。無駄な授業は１回も無い。出席すれば必ず何か新しいことが学べ，またそれに基づいて宿題の形で応用的・発展的練習もできるのです。

また新しい友人と出会ってほしい。クラブ以外の友人を作るには，週2回会える英語以外の外国語の時間が最適です。